

富士山 3776 自然林復元大作戦

(富士山麓に豊かな自然林を)

静岡県と静岡森林管理署は4月28日(土)、富士市大淵の富士山国有林にブナやミズナラなどの広葉樹を3,500本の植樹を行いました。

静岡県は、国有林内の4箇所で県民のボランティアによる森林(もり)づくりを行っており、現在の箇所が順調に生育し、下刈を終了する所が出てきたことから、新たな箇所に着手することになり、今回の森林づくりとなりました。植栽方法は、シカ等の被害対策を考慮して、地元のNPO団体が取り組んでいる、パッチ植(班状群落)を取り入れることにしました。

静岡県が主体となり、参加者100人を一般公募し、運営をNPO法人富士山自然の森づくりが担当、署は、フィールドと苗木の提供、パッチの区画造りを担当しました。

当日は、静岡県環境局橋本自然保護室長と高畑森林管理署長が挨拶をし、植樹作業の説明をNPO法人富士山自然の森づくりの仁藤理事長が行った後、植栽場所へ移動をしました。

各班ごとに1パッチ当たり、15本(ブナ3本、他12本)の苗木・234パッチの植樹を行いました。

参加者100人は、10班に分かれて、NPOスタッフの指導を受けながら植樹作業に取り組み、昼食を挟み、午後3時に、全区画の植樹を終了しました。

また、シカ等の調査のため、センサーカメラ2台を設置し、今後の経過も観察することになりました。

参加された皆様、お疲れ様でした。



挨拶:静岡県 橋本自然保護室長



作業説明:NPO富士山自然の森づくり 仁藤 理事長



10班に分かれて植樹作業



マメザクラ(別名:フジザクラ)
(地拵えの畝の中で生育した自生種)